

平成19年度事業報告

(平成19年4月1日－平成20年3月31日)

I. 会員数 (平成20年3月31日)

(1) 名誉会員	4名
(2) 正会員	
平成19年3月31日会員数	1,378名
平成19年度新入会員数	103名
平成19年度退会者数	128名
内訳 希望退会者	128名
物故者	0名
正会員現在数	1,353名 (25名減)
(3) 維持会員	
平成19年3月31日維持会員数	110社
平成19年度入会社数	0社
平成19年度退会社数	3社
維持会員現在数	107社 (3社減)

II. 機関誌送本および販売数 (各号につき)

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	4冊
	正会員	1,052冊
	維持会員	272冊
国外	正会員	6冊
	小計	1,334冊
(2) 販売数		75冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	10	10冊
国外	57	57冊
	小計	67冊
合計機関誌送本数		1,476冊
(4) その他		

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

III. 第54回通常総会

開催年月日：平成19年5月24日

開催場所：タワーホール船堀

IV. 理事会、評議員会

(1) 理事会 2回開催

① 定例 開催年月日：平成19年5月22日

開催場所：タワーホール船堀

② 定例 開催年月日：平成19年11月28日

開催場所：中央大学駿河台記念館

(2) 評議員会 1回開催

開催年月日：平成19年5月22日

開催場所：タワーホール船堀

V. 定期学術集会の開催

第54回日本実験動物学会総会を下記のように開催した。

会期：平成19年5月23日（水）～25日（金）

会場：タワーホール船堀

会長：須藤 カツ子（東京医科大学動物実験センター）

参加者：886名

VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成19年 4月 1日	56	2	一部収益事業
平成19年 4月 1日	56	3（サプリメント号）	〃
平成19年 7月 1日	56	4	〃
平成19年10月 1日	56	5	〃
平成20年 1月 1日	57	1	〃

VII. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第19回学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞（3名）

佐藤 徳光

辻 紘一郎

武藤 健

2) 安東・田嶋賞 (1名)

伊藤 豊志雄：「実験動物の微生物学的品質管理に果たした役割」

3) 2006年 Experimental Animals 最優秀論文賞

藤本和則、小石龍太、清水川哲也、安藤洋介：「*Angptl3* 欠損マウスはリポ蛋白リパーゼ活性亢進による血中脂質濃度の低下を示す」

(2) 2006年日本実験動物学会国際賞を表彰した。

・受賞者 (4名)

中国 : Yin Ming

韓国 : Byeong-Cheol Kang

台湾 : Yi-Fan Chen

タイ : Thidarut Boonmars

(3) 第20回学会賞受賞者を選出した。

1) 功労賞 (1名)

長 文昭

2) 2007年 Experimental Animals 最優秀論文賞

森 政之、澤下仁子、樋口京一：

「実験用ラットにおける *Lss* 遺伝子の機能的多型」

(4) 2007年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

・受賞者 (8名)

マレーシア : Goh Yong-Meng

シンガポール : Jason So Villano

インド : MJ Jelald Mahesh Kumar

タイ : Wilai Thongdeejaroen

中国 : Yuyuan Ma

フィリピン : Mark Pierre S. Dimamay

台湾 : Li Chao-Chin

韓国 : Seung Hyeok Seok

VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、学会統合組織委員会、疾患モデル委員会、国際交流委員会、動物福祉・倫理委員会、広報・渉外委員会、定款・細則・規程等検討委員会、マウス・ラット感染対策委員会、教育・研修ワーキンググループ、機関誌検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議の活動に協力した。
- (2) 社団法人日本実験動物協会、日本実験動物技術者協会、日本実験動物環境研究会およびその他の国内外関連学会・協会の活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）の事業に協力した。
- (4) アジア実験動物学会連合（AFLAS）の事業に協力した。
- (5) 米国実験動物学会（AALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流をした。
- (6) 国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物施設協議会等の活動に協力した。
- (7) 財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターの活動に協力した。

X. その他

- (1) 平成 19 年度維持会員懇談会を実施した。（財務特別委員会担当）
- (2) ワークショップ等を開催した。（教育・研修ワーキンググループ担当）
 - 第 54 回総会期間中に 4 つのワークショップを開催した。
 - ① 胚と精子の凍結保存
 - ② 遺伝子マッピングとその応用
 - ③ 微生物モニタリング
 - ④ 実験動物の麻酔
- (3) 日本疾患モデル学会との統合を行った。（学会統合組織委員会担当）